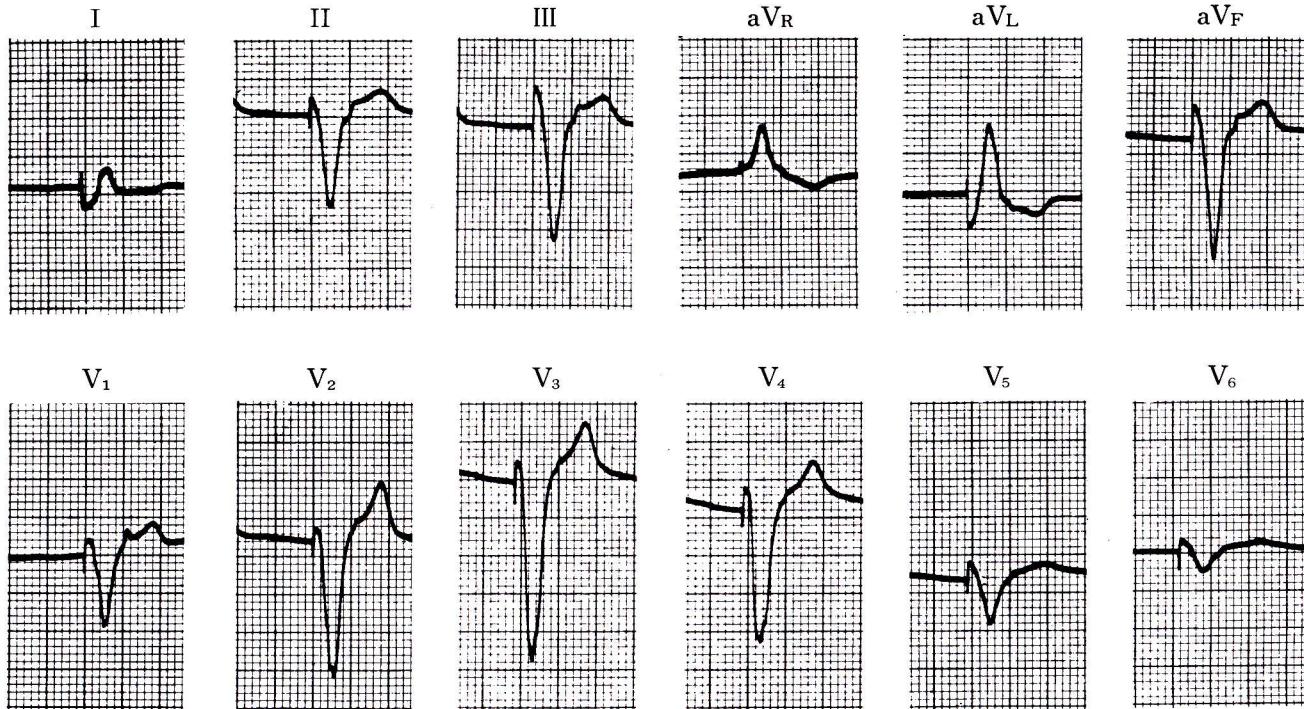


# 症例 74

●65歳 男

- ドック入院で心電図異常を指摘され、入院治療中の患者である。



- 1) 非常に幅が広い異常 QRS波形が全誘導にみられるが何か。

## 心室ペーシング心電図

各誘導の QRS 波起始部に鋭いスパイク状の小さい振れが認められる。これは心室ペーシングのペースメーカスパイクであり、本症例は洞徐脈、モービット II 型の房室ブロックのためデマンド型のペースメーカを装着したものである。心室ペーシング時には QRS 波、T 波は心室波形となるため、心筋梗塞、心肥大、心筋傷害をはじめとした通常の波形診断はすべて適用する

ことはできない。

ペースメーカ心電図ではペースメーカスパイクが出ているのに、その後に QRS 波が出ない(ペーシングミス)、デマンド型ペースメーカの場合には先行収縮のすぐ後にペースメーカスパイクが入る(デマンドミス)などの異常の有無、自己心拍の出現の有無に注意すべきである。